主な研究活動

運営委員会

2020年度

第10回 2021年2月24日	⑴2020年度事業報告(案)について⑵2021年度事業計画(案)について⑶2021年度海外提携研究機関との招聘派遣事業について⑷非文字資料研究センターの英語表記について⑸論文不正に対する処分内規／論文不正に対する調査委員会内規⑹神奈川大学学術機関リポジトリ掲載コンテンツの削除について

2021年度

第1回 2021年4月28日	⑴2020年度決算報告について⑵2021年度予算(案)について⑶2021年度奨励研究事業について⑷新奨励研究実施(案)について⑸Zoom研究会の開催の運用と謝礼等の支払いについて⑹国立台湾歴史博物館との研究交流覚書の締結について⑺二重投稿の疑いのある論文について

研究員会議

2020年度

第6回 2021年2月24日	⑴2020年度事業報告(案)について⑵2021年度事業計画(案)について⑶2021年度海外提携研究機関との招聘派遣事業について⑷論文不正に対する処分内規／論文不正に対する調査委員会内規⑸神奈川大学学術機関リポジトリ掲載コンテンツの削除について

2021年度

第1回 2021年4月28日	⑴2020年度決算報告について⑵2021年度予算(案)について⑶2021年度奨励研究事業について

研究会

研究班研究会

2020年度

第7班　戦時下日本の国策紙芝居研究

2021年3月6日（非文字資料研究センター資料室＋Zoom会議）

2021年度

第4班　東アジア開港場（租界・居留地）における都市の発展と建築調査

第71回研究会　2021年4月16日（Zoom会議）

第5班　「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社

2021年4月24日「沖縄神社の創建とその後」（Zoom会議）

第7班　戦時下日本の国策紙芝居研究

2021年4月10日（非文字資料研究センター資料室＋Zoom会議）

現地調査

2020年度

調査テーマ	日程	場所	調査メンバー
中国近世・近代における生活・風俗の研究	2021年3月9日〜11日	長崎市立図書館、長崎歴史文化博物館	中林　広一

編 集 後 記

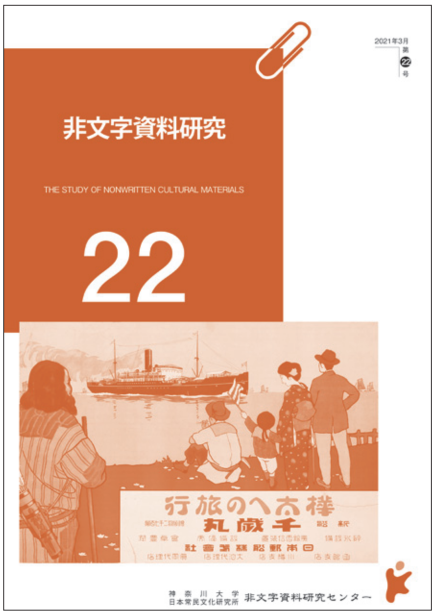
新型コロナウイルスの感染がなかなか収まらない。調査どころか、これまでと同じような日常生活もままならない。影響が長期化する中で、非文字資料研究センターのNewsletterなどの定期刊行物は、原稿が集まって発刊することができるのだろうか、などと心配にもなったりする。コロナ禍の制約のなかでも、各班の研究会などはZoomを活用して開かれ、調査も工夫されながら実施されているようだ。いろいろな形で研究は進められている。今号に寄せられたものは、研究会報告やはがき、紙芝居、古い写真や図版などを活用した論考、そして研究にまつわるエッセーなど。読み応えのある文章はもちろん、「絵もの」は論考の手がかりとしてみる資料としてだけでなく、「絵もの」それ自体を単体で見ていくことも楽しい。そして、貴重だ。いずれにしても、その時代に引き寄せられていく。媒体としてのNewsletterの魅力は、A判というその大きさと、カラーという点だろう。各論考とも、その場を最大限活用している。PRするとすれば、「読んで、そして見て、二度楽しめる」ということか。（後田多敦）

表 紙 説 明

日中戦争から太平洋戦争の敗戦に至る「総力戦」の時代に創作された国策紙芝居。扱われている主題は、皇軍と呼ばれた日本軍の戦い、前線を支える銃後社会の諸相（貯蓄・増産・防諜・防空等）、軍隊への志願・出征・慰問、東西偉人伝、史話・童話など多岐にわたっている。こうした主題の多様性に加え、紙芝居資料へのアクセス手段が限定されていたことは、総合的研究の進展を阻んできた。私ども研究班による『国策紙芝居からみる日本の戦争』（勉誠出版、2018年2月）では、作品解題として紙芝居一点ごとの接近戦が試行され、関連論稿として論者の問題意識にもとづく作品群の横断的分析が行われた。しかし、国策紙芝居は、未発掘作品の継続調査を要求するとともに、多くの研究課題を突き付けている。表紙に掲げた著名な人物から、近代国家として約70年を経た時代へのメッセージを読みとることも一つの研究課題である。国策紙芝居は、どのような定規を当てるかによって、戦時下日本の地域性や大衆感情、創作者集団の特質など、戦時社会を新たに照らしだす有力な非文字資料たる地位を失っていない。（原田広）

Information

非文字資料研究 22 号



●2021 年 3 月 20 日刊行
●内容

伝金弘道筆『平生図』の「観察使赴任図」を読み解く
――朝鮮時代の官吏赴任行列図の文化的諸像――　金貞我
戦前期の中国製ポスターに関する研究
――1880～1920 年代半ばに製作された
中国語表記の作品に見られる特徴について――　田島奈都子
三つの谷之者―竹の表象から　内藤久義
日本の金属業祭祀における神道と中国文化
――鞴祭りを中心に――　劉琳琳
日本列島への稲作伝来の２段階・２系統説の提起　河野通明

2019 年度　奨励研究　成果論文
台湾における動物供犠の民俗
――豚を中心に――　王海翠
景徳鎮における製磁原料生産技術の変遷
――三宝村の磁土を中心に――　王麗
熊谷うちわ祭における権威の変遷
――外部の祭礼との関連性に注目して――　市東真一
奄美諸島の石敢當受容
――喜界島・奄美大島・徳之島を中心として――　蒋明超
モンゴル・シャマニズム「九つの試練」について
――ホルチン地域の事例から――　張高娃
台湾原住民セデック族の文面文化に関する考察　李干

FANNING THE FLAMES: Propaganda in Modern Japan Edited by Kaoru Ueda

2021 年 6 月に、スタンフォード大学フーヴァー研究所（Hoover Institution）出版部門（フーヴァー・プレス）より、下記書籍（英語）が刊行されました。

この書籍は、フーヴァー研究所ライブラリー＆アーカイブス所蔵の日清戦争、日露戦争の新版画と戦中紙芝居のカラー図版を、関連分野の研究者 10 名の論考と共に紹介し、当時の日本のプロパガンダメディアの継続性、新規性、裾野の広さを考証したものです。研究者による論考の一つとして、非文字資料研究センター「戦時下日本の国策紙芝居研究」班の客員研究員、安田常雄氏が非文字資料研究叢書 1『国策紙芝居からみる日本の戦争』（勉誠出版、2018 年）に執筆した総論「アジア太平洋戦争と紙芝居」のダイジェストが掲載されました。（フーヴァー研究所ライブラリー＆アーカイブス学芸員上田薫氏の編集、翻訳による。）
他の論考執筆者は以下の通り：
Michael R.Auslin, Toshihiko Kishi, Hanae Kurihara Kramer, Scott Kramer, Barak Kushner, Olivia Morello, Junichi Okubo, Alice Y.Tseng, Taketoshi Yamamoto

スタンフォード大学フーヴァー研究所について

フーヴァー研究所はスタンフォード大学が所有する図書館とアーカイブを併設するシンクタンクである。1919 年に大統領に就任する前のフーヴァーがヨーロッパの第一次世界大戦の惨劇を繰り返さないようにとの目的でアーカイブ資料を収集し、フーヴァー図書館を設立したことが始まりである。

過去 100 年間、主に戦争関連のアーカイブ資料を収集、世界中の研究者に利用されている世界でも有数のアーカイブスである。日本占領期時代には、スタンフォード大学卒業生のイニシャティブにより、東京オフィスを設置して資料を収集した。日本、日系コレクションでは、日本占領期資料と日系強制収容所の資料が特に強い。

スタンフォード大学フーヴァー研究所　HP　https://www.hoover.org/
FANNING THE FLAMES 刊行の紹介　https://www.hoover.org/research/fanning-flames-propaganda-modern-japan
出版を記念して数名の執筆者によるスピーチも公開されています　https://www.hoover.org/events/fanning-flames-speaker-series

非文字資料研究センター　News Letter　No.46
発　行　日　2021年 9 月30日 発行
編集・発行　神奈川大学 日本常民文化研究所　非文字資料研究センター
Research Center for Nonwritten Cultural Materials,
Institute for the Study of Japanese Folk Culture, Kanagawa University

〒221-8686　横浜市神奈川区六角橋3-27-1
■Tel.045-481-5661　■Fax.045-491-0659　■URL http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/